

底抜けに明るくて楽しい
ラブ・コメディーを
イタリアのフレッシュな歌手陣で!

イタリア・スポレート歌劇場

オペラ発祥の地イタリアでは、たとえ無名でも伸び盛りの歌手が好まれます。そして、こうした若手が実力を世に問い、さらに才能を伸ばすための機会が公的援助のもとに数多く設けられています。その筆頭格が、この『スポレート歌劇場』。この劇場には優れた人材を次々と世に送り出すイタリア・オペラ界のエネルギーがみなぎっています。ブルヅン、デヴィーア、サッパティーニ・・・半世紀にわたり名歌手を輩出してきた歌劇場の、今回の来日公演は文句なしに楽しいイタリア・オペラ「セビリアの理髪師」。さあ、思う存分笑い転げ、軽快なイタリア気質に酔い、そして明日のスター歌手を探しましょう!

指揮: ヴィート・クレメンテ
Vito Clemente

演出: ジョルジュ・プレスブルガー
Giorgio Pressburger

キャスト

アルマヴィーヴァ伯爵: エンリーコ・イヴィツリア / ジャンルカ・ホッキーン
バルトロ: エウジェーニオ・レッチャドリ / オマール・モンタナーリ
ロジーナ: フェデリカ・カルネヴァーレ / マリア・アグレスト
フィガロ: マッシミリアーノ・フィケーラ / オリヴィエロ・ジョルジュッティ
イタリア・スポレート歌劇場管弦楽団 / 合唱団

やむを得ない事情により変更となる場合がございますが、どうぞご了承くださいませ。正式なキャストの発表は公演当日となります。

舞台写真: 2006年9月スポレート歌劇場で撮影 © FOTOVIDEOLAB di Riccardo Spihella

恋はマジック

恋した瞬間から
すべてが変わる
恋すると歌いたくなる、恋すると踊りたくなる
ああなんてステキ
恋ってやっぱり素晴らしい!

天真爛漫、底抜けに明るいラブ・コメディー
これぞイタリア喜劇!

ロッシーニ セビリアの理髪師

イタリア・スポレート歌劇場

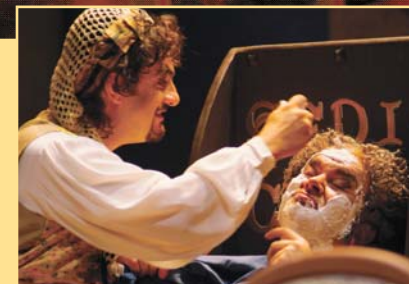
Teatro Lirico Sperimentale di Spoleto "A. Belli"

ロッシーニ

歌劇 セビリアの理髪師 全二幕
G. Rossini "Il Barbiere di Siviglia"

日本語字幕付

イタリアオペラ「セビリアの理髪師」は、ロッシーニでも人気随一、オペラ・ブッファ(喜劇)の最高傑作です。軽快でスピード感いっぱいの音楽に乗せて、コミカルなストーリーが小気味良いテンポで繰り広げられます。オーケストラのコンサートでも多く取り上げられる美しい序曲、フィガロが自分の自慢話を早口でまくし立てる「私は町の何でも屋」、コロラトゥーラの技巧がふんだんに織り込まれたロジーナの「今の歌声は」など、おなじみのナンバーが続々登場。ストーリーもドタバタ喜劇で、見どころ聴きどころ満載です。美しい音楽と魅力的なアリアが散りばめられた傑作イタリアオペラを、どうぞお楽しみに!



舞台は18世紀、スペイン、セビリア。

ダンディな大貴族アルマヴィーヴァ伯爵は、町一番の美女ロジーナに一目惚れ。彼女の部屋の下でセレナーデを歌うが、窓は開かない。なぜなら彼女の後見人バルトロが、彼女を奪われまいと目を光らせているからだ。ロジーナは両親の莫大な遺産を持っていて、バルトロはその遺産を虎視眈々と狙っている。

さて伯爵。なんとかロジーナに思いを伝えようと、町の便利屋・フィガロに助けを求める。フィガロは、金さえもらえば散髪から身の上相談、恋の仲介、手紙の代筆まで何でもこなす町の便利屋。

伯爵が、身分を隠すため貧乏学生に変装しロジーナに接近したところ、彼女も恋心を抱きはじめる。しかし、バルトロの妨害でなかなか二人は会うことができない。そこで伯爵、酔った士官に変装しバルトロ邸に乱入。邸内は大混乱。かと思えば音楽教師に化け、歌のレッスンを口実に接近。これまた大騒ぎ。伯爵は幾度も窮地にたつものの、フィガロの機転でピンチを脱し、すったもんだの末ハッピーエンドで幕となる。